特別市民セ

全代の

太平洋戦争において日本を降伏に導くため、

米ソ間で熾烈な駆け引きがあった―。

ポツダム会談から日本降伏決定に至るまでの米ソ間の駆け 引きとは。そして、トルーマンの原爆投下とソ連の参戦は実 際に日本の降伏決定にどう影響したのか。

講師の長谷川毅氏は、「原爆投下は日本を降伏させるための 唯一の手段であり、また原爆投下こそが直ちに日本を降伏に導 いた」という議論に挑戦している。

被爆地・長崎での初講演に、じっくりと耳を傾けたい。



、場無料 事前申込不要 長谷川

カリフォルニア大学サンタバーバラ校 歴史学部名誉教授

プロフィール

北海道大学やカリフォルニア大学サンタバーバラ校で長く歴史学の教鞭をとる。 ロシア史が専門で、日本語で読める著作として『北方領土問題と日露関係』(筑摩 書房、2000年)などがある。ロシアに関する専門的知識を活かして執筆された 『暗闘―スターリン、トルーマンと日本降伏』(中央公論新社、2006年)は、日本 の降伏決定過程をめぐる論争を歴史家の間に引き起こした。

2018 10/10

時 🛮 18:30 ~ 20:00

場所・長崎大学文教キャンパス 教養教育棟1階 A-14番教室

主催/核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC) 〒852-8521 長崎市文教町 1-14

TEI 095-819-2252 FAX: 095-819-2165

URL: http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/pcu

共催 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

核兵器廃絶 長崎連絡協議会 PCU-Nagasaki Council



長崎大学文教キャンパス

教養教育棟 1 階 A-14 番教室

